



東北大学

平成 26 年 11 月 11 日

報道機関 各位

東北大学大学院農学研究科

「東北大学菜の花プロジェクト」
～フード・アクション・ニッポン アワード 2014～
研究開発・新技術部門 優秀賞受賞

「東北大学菜の花プロジェクト」(プロジェクトリーダー、環境システム生物学:中井裕教授)は菜の花を用いた塩害農地の復興への取組みが評価され、この度、フード・アクション・ニッポン アワード 2014 研究開発・新技術部門の優秀賞を受賞しました。

「東北大学菜の花プロジェクト」は、東日本大震災で津波に冠水し、塩害に悩まされている被災地の農地復興を目的として、2011年3月、東北大学大学院農学研究科の有志教員が、各方面の支援を受けながら、産官学の連携プロジェクトとして立ち上げました。

本研究科は、世界で唯一のアブラナ科植物のジーンバンクを保有する機関(植物遺伝育種学:西尾剛教授)で、この遺伝資源を利用して、耐塩性に優れた品種の研究開発に取り組んでいます。同時に、塩害農地の徹底した土壌調査と分析を宮城県と共同で行い(土壌立地学:南條正巳教授 栽培植物環境科学:齋藤雅典教授、伊藤豊彰准教授)、最適な品種の選抜(植物遺伝育種学:北柴大泰准教授)、ナタネ生産残渣のメタン発酵・エネルギー生産システム開発(環境システム生物学:中井裕教授)に取り組んでいます。

すでに、アブラナの一般品種を塩害農地で栽培しており、食用菜の花や食用油などの食品、プリザーブドフラワー、キャンドルなどの商品開発のほか(フィールド社会技術学:大村道明助教)、バイオディーゼル燃料の製造も行っています。ナタネを中心としたエネルギーの地産地消、ナタネの茎葉や搾りかすなどの資源循環、耐塩性品種の利用などをめざした態勢づくりを進めています。

【フード・アクション・ニッポン アワード 2014 とは】

「フード・アクション・ニッポン」の一環として創設した表彰制度です。国産農産物等の消費拡大に寄与する事業者・団体等の優れた取組を表彰することにより、国産農産物等の消費拡大に向けた活動を推進することによって、私たちや未来の子供たちが安心しておいしく食べていける社会の実現を目指すものです (<http://syokuryo.jp/award/>)

【フード・アクション・ニッポンとは】

日本の食を次の世代に残し、創るために、民間企業・団体・行政等が一体となって推進する、国産農産物等の消費拡大の取組です。

農林水産省が共催し、内閣府・観光庁・環境省が後援しています。

(<http://syokuryo.jp/index.html>)



東北大学は、災害復興新生研究機構を設立して、東日本大震災からの復興に向けて、「8つのプロジェクトと復興アクション100+」に取り組んでいます。東北大菜の花プロジェクトは、復興アクション100+の1つである農学研究科の「食・農・村の復興支援プロジェクト」の一環であり、農学研究科の教職員が自主的に活動しています。

災害復興新生研究機構⇒ <http://www.idrrr.tohoku.ac.jp/>

食・農・村の復興支援プロジェクト⇒ <http://www.agri.tohoku.ac.jp/agri-revival>

東北大学菜の花プロジェクト⇒ <http://www.nanohana-tohoku.com/>

東北復興農学センター⇒<http://www.tascr.agri.tohoku.ac.jp/>

(お問い合わせ先)

東北大学大学院農学研究科

東北大学菜の花プロジェクト事務局

担当：寺島 電話：022-717-8929

E-mail：info*nanohana-tohoku.com

(*を@に変換してください)